



SANtricity®ソフトウェア

SANtricity® Cloud Connector

インストールと使用

2019年8月 | 215-13875_2019-08_ja-jp
ng-gpso-jp-documents@netapp.com

目次

本書の内容	5
このガイドの対象者	5
SANtricity Cloud Connectorの概要	5
バックアップのタイプ	5
システム要件	6
ホスト ハードウェアの要件	6
サポートされるブラウザ	6
互換性があるストレージ アレイとコントローラ ファームウェア	7
互換性があるオペレーティング システム	7
サポートされているファイルシステム	7
SANtricity Cloud Connectorのインストール	8
Device Mapper Multipath (DM-MP) のインストール	8
Linuxオペレーティング システムでのグラフィカル モードを使用した SANtricity Cloud Connectorのインストール	8
Linuxオペレーティング システムでのコンソール モードを使用した SANtricity Cloud Connectorのインストール	10
キーストアへのサーバ証明書とCA証明書の追加	11
キーストアへのStorageGRID証明書の追加	12
SANtricity Cloud Connectorの初期設定	13
SANtricity Cloud Connectorへの初回ログイン	13
設定ウィザード	13
管理者パスワードの設定	14
パス フレーズの設定	14
ターゲット タイプの選択	15
Web Services Proxyへの接続	18
SANtricity Cloud Connectorの初期設定の完了	20
SANtricity Cloud Connectorの使用	21
SANtricity Cloud Connectorへのログイン	21
バックアップ	22
イメージベースのバックアップの新規作成	22
フォルダ / ファイルベースのバックアップの新規作成	23
フルバックアップと増分バックアップの実行	24
バックアップ ジョブの削除	25
リストア	25
イメージベースのリストアの新規作成	26
ファイルベースのリストアの新規作成	27
リストアの削除	27
SANtricity Cloud Connectorの設定変更	28
S3アカウントの設定	28
ストレージ アレイの管理	29

Web Services設定	29
SANtricity Cloud Connectorのパスワードの変更	30
SANtricity Cloud Connectorのアンインストール	31
グラフィカル モードを使用したSANtricity Cloud Connectorのアンインストール	31
コンソール モードを使用したSANtricity Cloud Connectorのアンインストール	32
著作権に関する情報	33
商標に関する情報	34
マニュアルの更新について	35

本書の内容

本書では、NetApp SANtricity Cloud Connectorのインストール、設定、使用、アンインストールの各方法について説明します。

このガイドの対象者

このガイドは、SANtricity Cloud Connectorをインストール、使用、またはアンインストールする場合に使用します。

このガイドでは、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションに関連する一般的な概念、セットアップ、インストール、設定、およびジョブについて説明します。このガイドで説明する設定およびバックアップ/リストアジョブの手順は、SANtricity Cloud Connectorのグラフィカルユーザインターフェイスバージョンに該当します。SANtricity Cloud ConnectorアプリケーションのREST APIのワークフローについては、このガイドでは説明していません。開発者向けには、APIドキュメントにSANtricity Cloud Connectorの各操作のエンドポイント (URI) が記載されています。APIドキュメントを参照するには、ブラウザから<http://<hostname.domain>:<port>/docs>にアクセスします。

SANtricity Cloud Connectorの概要

SANtricity Cloud ConnectorはホストベースのLinuxアプリケーションです。Eシリーズ ボリュームをS3準拠のアカウント (Amazon Simple Storage ServiceおよびNetApp StorageGRIDなど) およびNetApp AltaVaultアプライアンスへブロックベースおよびファイルベースでフルバックアップし、リカバリすることができます。

SANtricity Cloud Connectorは、RedHatおよびSUSEのLinuxプラットフォームにインストールできるパッケージ ソリューション (.binファイル) です。SANtricity Cloud Connectorのインストールが完了したら、AltaVaultアプライアンスや既存のAmazon S3またはStorageGRIDアカウントへのEシリーズ ボリュームのバックアップ ジョブとリストア ジョブを実行するように設定することができます。SANtricity Cloud Connectorで実行されるすべてのジョブはRESTベースのAPIを使用します。

バックアップのタイプ

SANtricity Cloud Connectorは、イメージベースとファイルベースの2種類のバックアップを提供します。

- #### イメージベースのバックアップ

イメージベースのバックアップは、Snapshotボリュームから生のデータ ブロックを読み取り、イメージと呼ばれるファイルにバックアップします。空のブロック、削除されたファイルが占有しているブロック、パーティショニングに関連付けられているブロック、ファイルシステム メタデータを含む、Snapshotボリューム上のすべてのデータブロックがバックアップされます。イメージバックアップには、パーティショニング スキームやファイルシステムに関係なく、すべての情報をSnapshotボリュームを使用して格納できるという利点があります。

イメージは、バックアップ ターゲットに1つのファイルとして格納されるのではなく、64MBの一連のデータ チャンクに分割されて格納されます。データ チャンクに分割することでSANtricity Cloud Connectorからバックアップ ターゲットへの複数の接続を利用できるため、バックアップ プロセスのパフォーマンスが向上します。

StorageGRIDおよびAmazon Web Services (S3) へのバックアップでは、データ チャンクごとに別々の暗号化キーを使用してチャンクが暗号化されます。このキーには、ユーザ

が指定したパスフレーズとユーザデータのSHA256ハッシュを組み合わせたSHA256ハッシュが使用されます。AltaVaultへのバックアップでは、AltaVaultで暗号化が行われるため、SANtricity Cloud Connectorはデータチャンクを暗号化しません。

- **ファイルベースのバックアップ**

ファイルベースのバックアップは、ファイルシステムパーティションに格納されているファイルを読み取り、64MBの一連のデータチャンクにバックアップします。ファイルベースのバックアップでは、削除されたファイルやパーティショニングおよびファイルシステムのメタデータはバックアップされません。イメージベースのバックアップと同様に、データチャンクに分割することでSANtricity Cloud Connectorからバックアップターゲットへの複数の接続を利用できるため、バックアッププロセスのパフォーマンスが向上します。

StorageGRIDおよびAmazon Web Servicesへのバックアップでは、データチャンクごとに別々の暗号化キーを使用してチャンクが暗号化されます。このキーには、ユーザが指定したパスフレーズとユーザデータのSHA256ハッシュを組み合わせたSHA256ハッシュが使用されます。AltaVaultへのバックアップでは、AltaVaultで暗号化が行われるため、SANtricity Cloud Connectorはデータチャンクを暗号化しません。

システム要件

使用するシステムがSANtricity Cloud Connectorの互換性に関する要件を満たしている必要があります。

ホスト ハードウェアの要件

SANtricity Cloud Connectorをインストールする前に、システムがホストハードウェアに関する次の要件を満たしていることを確認する必要があります。

ハードウェアは、次の最小要件を満たしている必要があります。

- 5GB以上のメモリ（設定されている最大ヒープサイズ用に4GB）
- 250MB以上の空きディスクスペース（ソフトウェアのインストール用）

SANtricity Cloud Connectorを使用するには、SANtricity Web Services Proxyをインストールする必要があります。Web Services Proxyはローカルにインストールすることも、別のサーバでリモートで実行することもできます。SANtricity Web Services Proxyのインストールについては、[ESシリーズ ドキュメント センター](#)にある『NetApp SANtricity Web Services Proxyインストールと使用』を参照してください。

サポートされるブラウザ

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションでは、サポートされているブラウザを使用する必要があります。

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションでサポートされるブラウザと最小バージョンは次のとおりです。

- Firefox 31
- Google Chrome 47
- Microsoft Internet Explorer 11
- Microsoft Edge、EdgeHTML 12
- Safari 9

注：Microsoft Internet Explorer 11の互換表示設定を使用している場合、SANtricity Cloud ConnectorアプリケーションのAPIドキュメントはロードされません。Microsoft Internet Explorer 11でAPIドキュメントが正しく表示されるようにするため、互換表示設定を無効にすることを推奨します。

互換性があるストレージ アレイとコントローラ ファームウェア

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションを使用する前に、ストレージ アレイとファームウェアの互換性を確認する必要があります。

SANtricity Cloud Connectorと互換性があるすべてのストレージ アレイおよびファームウェアの最新のリストについては、[NetApp Interoperability Matrix Tool](#)を参照してください。

互換性があるオペレーティング システム

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションを使用するには、互換性があるオペレーティング システムが必要です。

SANtricity Cloud Connector 4.0アプリケーションと互換性があるサポート対象のオペレーティング システムは次のとおりです。

オペレーティング システム	バージョン	アーキテクチャ
Red Hat Enterprise Linux (RHEL)	7.x	64ビット
SUSE Linux Enterprise Server (SLES)	12.x	64ビット

サポートされているファイルシステム

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションを使用してバックアップとリストアを実行するには、サポートされているファイルシステムを使用する必要があります。

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションでは、次のファイルシステムのバックアップ処理とリストア処理がサポートされます。

- ext2
- ext3
- ext4

SANtricity Cloud Connectorのインストール

SANtricity Cloud Connectorパッケージ ソリューション (.binファイル) は、RedHatおよびSUSE Linuxプラットフォームでのみ使用できます。

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションは、互換性のあるLinuxオペレーティング システムにグラフィカル モードまたはコンソール モードを使用してインストールできます。インストール時に、SANtricity Cloud Connectorの非SSLとSSLのポート番号を指定する必要があります。インストールが完了すると、SANtricity Cloud Connectorはデーモンプロセスとして実行されます。

注： Web Services ProxyがCloud Connectorと同じサーバにすでにインストールされている場合は、非SSLのポート番号とSSLのポート番号に競合が発生します。この場合は、SANtricity Cloud Connectorのインストール時に、非SSLのポートとSSLのポートに適切な番号を選択してください。

重要：ホストのハードウェアに何らかの変更があった場合は、SANtricity Cloud Connectorを再インストールして暗号化の整合性を確保します。

注： SANtricity Cloud Connector 3.1で作成されたバックアップは、SANtricity Cloud Connector バージョン4.0とは互換性がありません。これらのバックアップを維持する場合は、以前のバージョンのSANtricity Cloud Connectorを引き続き使用する必要があります。SANtricity Cloud Connectorの3.1と4.0のリリースを別々にインストールする場合は、各バージョンに対して一意のポート番号を割り当てる必要があります。

Device Mapper Multipath (DM-MP) のインストール

SANtricity Cloud Connectorを実行するホストはLinux Device Mapper Multipath (DM-MP) も実行する必要があり、マルチパス ツール パッケージがインストールされている必要があります。

SANtricity Cloud Connectorの検出プロセスでは、バックアップまたはリストアの対象となるボリュームやファイルの検出と認識にマルチパス ツール パッケージを使用します。Device Mapperをセットアップおよび設定する方法の詳細については、[Eシリーズ / SANtricityドキュメント リソース](#)で、使用しているSANtricityのリリースに対応した『*SANtricity Storage Manager Multipath Drivers Guide*』を参照してください。

Linuxオペレーティング システムでのグラフィカル モードを使用したSANtricity Cloud Connectorのインストール

Linuxオペレーティング システムでグラフィカル モードを使用してSANtricity Cloud Connectorをインストールできます。

開始する前に

- SANtricity Cloud Connectorをインストールするホストの場所を決めておきます。

手順

1. SANtricity Cloud Connectorインストール ファイルを目的のホストの場所にダウンロードします。
2. ターミナル ウィンドウを開きます。

3. SANtricity Cloud Connectorインストール ファイルが格納されているディレクトリに移動します。
4. SANtricity Cloud Connectorのインストール プロセスを開始します。

```
./cloudconnector-xxxx.bin -i gui
```

「xxxx」はアプリケーションのバージョン番号です。

インストーラ ウィンドウが表示されます。

5. 説明を確認し、[Next]をクリックします。
ソフトウェアのライセンス契約がインストーラ ウィンドウに表示されます。
6. ライセンス契約の条項に同意し、[Next]をクリックします。
[Backups created with previous releases of SANtricity Cloud Connector]ページが表示されます。
7. [Backups created with previous releases of SANtricity Cloud Connector]のメッセージを確認するには、[Next]をクリックします。

注: 以前のバージョンを維持したままSANtricity Cloud Connectorバージョン4.0をインストールするには、アプリケーションの各バージョンに固有のポート番号を割り当てる必要があります。

インストーラ ウィンドウに[Choose Install]ページが表示されます。[Where Would You Like to Install]フィールドには、デフォルトのインストール フォルダopt/netapp/santricity_cloud_connector4/が表示されます。

8. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - デフォルトの場所を使用する場合は、[Next]をクリックします。
 - デフォルトの場所を変更する場合は、新しいフォルダの場所を入力します。

[Enter the Non SSL Jetty Port Number]ページが表示されます。非SSLポートにはデフォルト値の8080が割り当てられています。
9. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - デフォルトのSSLのポート番号を使用する場合は、[Next]をクリックします。
 - デフォルトのSSLのポート番号を変更する場合は、新しいポート番号を入力します。
10. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - デフォルトの非SSLポート番号を使用する場合は、[Next]をクリックします。
 - デフォルトの非SSLポート番号を変更する場合は、使用する新しいポート番号の値を入力します。

[Pre-Installation Summary]ページが表示されます。

11. 表示された[Pre-Installation Summary]ページの内容を確認し、[Install]をクリックします。
SANtricity Cloud Connectorのインストールが開始され、Webserver Daemon Setupプロンプトが表示されます。
12. [OK]をクリックしてWebserver Daemon Setupプロンプトを確認します。
「Installation Complete」というメッセージが表示されます。

13. **[Done]**をクリックしてSANtricity Cloud Connectorインストーラを終了します。

Linuxオペレーティング システムでのコンソール モードを使用したSANtricity Cloud Connectorのインストール

Linuxオペレーティング システムでコンソール モードを使用してSANtricity Cloud Connectorをインストールできます。

開始する前に

- SANtricity Cloud Connectorをインストールするホストの場所を決めておきます。

手順

1. SANtricity Cloud Connectorインストール ファイルを目的のIOホストの場所にダウンロードします。
2. ターミナル ウィンドウを開きます。
3. SANtricity Cloud Connectorインストール ファイルが格納されているディレクトリに移動します。
4. SANtricity Cloud Connectorのインストール プロセスを開始します。

```
./cloudconnector-xxxx.bin -i console
```

「xxxx」はアプリケーションのバージョン番号です。

SANtricity Cloud Connectorのインストール プロセスが開始されます。

5. **Enter**キーを押してインストール プロセスを進めます。

ネットアップ ソフトウェアのエンドユーザ ライセンス契約がインストーラ ウィンドウに表示されます。

注：インストール プロセスは、インストーラ ウィンドウで「quit」と入力するといつでもキャンセルできます。

6. **Enter**キーを押して、エンドユーザ ライセンス契約の内容を確認します。

ライセンス契約への同意を求めるメッセージがインストーラ ウィンドウに表示されます。

7. エンドユーザ ライセンス契約の条項に同意してSANtricity Cloud Connectorをインストールする場合は、インストーラ ウィンドウで「Y」と入力して**Enter**キーを押します。

[Backups created with previous releases of SANtricity Cloud Connector]ページが表示されます。

注：エンドユーザ契約の条項に同意しない場合は、「N」と入力して**Enter**キーを押すと、SANtricity Cloud Connectorのインストール プロセスが終了します。

8. [Backups created with previous releases of SANtricity Cloud Connector]のメッセージを確認するには、**Enter**キーを押します。

注：以前のバージョンを維持したままSANtricity Cloud Connectorバージョン4.0をインストールするには、アプリケーションの各バージョンに固有のポート番号を割り当てる必要があります。

「Choose Install Folder」というメッセージが表示され、SANtricity Cloud Connectorのデフォルトのインストールフォルダ `/opt/netapp/santricity_cloud_connector4/` が表示されます。

9. 次のいずれかのオプションを選択します。

- デフォルトのインストール場所を使用する場合は、**Enter**キーを押します。
- デフォルトのインストール場所を変更する場合は、新しいフォルダの場所を入力します。

「Enter the Non SSL Jetty Port Number」というメッセージが表示されます。非SSLポートにはデフォルト値の8080が割り当てられています。

10. 次のいずれかのオプションを選択します。

- デフォルトのSSLのポート番号を使用する場合は、**[Next]**をクリックします。
- デフォルトのSSLのポート番号を変更する場合は、新しいポート番号を入力します。

11. 次のいずれかのオプションを選択します。

- デフォルトの非SSLポート番号を使用する場合は、**Enter**キーを押します。
- デフォルトの非SSLポート番号を変更する場合は、新しいポート番号を入力します。

SANtricity Cloud Connectorのインストール概要が表示されます。

12. 表示されたインストール概要を確認し、**Enter**キーを押します。

13. **Enter**キーを押してWebserver Daemon Setupプロンプトを確認します。

「Installation Complete」というメッセージが表示されます。

14. **Enter**キーを押してSANtricity Cloud Connectorインストーラを終了します。

キーストアへのサーバ証明書とCA証明書の追加

ブラウザからSANtricity Cloud Connectorホストへのセキュアなhttps接続を使用するには、SANtricity Cloud Connectorホストからの自己署名証明書を受け入れるか、ブラウザとSANtricity Cloud Connectorアプリケーションの両方で認識される証明書と信頼チェーンを追加します。

開始する前に

- SANtricity Cloud Connectorアプリケーションをホストにインストールしておきます。

手順

1. `systemctl`コマンドを使用してサービスを停止します。
2. デフォルトのインストール場所から、作業ディレクトリにアクセスします。

注： SANtricity Cloud Connectorのデフォルトのインストール場所は、`/opt/netapp/santricity_cloud_connector4`です。

3. `keytool`コマンドを使用して、サーバ証明書と証明書署名要求（CSR）を作成します。

例

```
keytool -genkey -dname "CN=host.example.com, OU=Engineering, O=Company, L=<CITY>, S=<STATE>, C=<COUNTRY>" -alias cloudconnect -
```

```
keyalg "RSA" -sigalg SHA256withRSA -keysize 2048 -validity 365 -
keystore keystore_cloudconnect.jks -storepass changeit
keytool -certreq -alias cloudconnect -keystore
keystore_cloudconnect.jks -storepass changeit -file cloudconnect.csr
```

4. 生成されたCSRを任意の認証局（CA）に送ります。

認証局によって署名された署名済みの証明書が返送されます。さらに、CA自体の証明書も送られてきます。このCA証明書をキーストアにインポートする必要があります。

5. 証明書とCA証明書チェーンをアプリケーション キーストア/<install Path>/working/keystoreにインポートします。

例

```
keytool -import -alias ca-root -file root-ca.cer -keystore
keystore_cloudconnect.jks -storepass <password> -noprompt
keytool -import -alias ca-issuing-1 -file issuing-ca-1.cer -keystore
keystore_cloudconnect.jks -storepass <password> -noprompt
keytool -import -trustcacerts -alias cloudconnect -file certnew.cer -
keystore keystore_cloudconnect.jks -storepass <password>
```

6. サービスを再起動します。

キーストアへのStorageGRID証明書の追加

StorageGRIDをSANtricity Cloud Connectorアプリケーションのターゲット タイプとして設定する場合は、まずSANtricity Cloud ConnectorキーストアにStorageGRID証明書を追加する必要があります。

開始する前に

- StorageGRID証明書に署名しておきます。
- SANtricity Cloud Connectorアプリケーションをホストにインストールしておきます。

手順

1. systemctlコマンドを使用してサービスを停止します。
2. デフォルトのインストール場所から、作業ディレクトリにアクセスします。
注： SANtricity Cloud Connectorのデフォルトのインストール場所は、/opt/netapp/santricity_cloud_connector4です。
3. StorageGRID証明書をアプリケーション キーストア/<install Path>/working/keystoreにインポートします。

例

```
opt/netapp/santricity_cloud_connector4/jre/bin/keytool -import -
trustcacerts -storepass changeit -noprompt -alias StorageGrid_SSL -
file /home/ictlabs01.cer -keystore /opt/netapp/
santricity_cloud_connector4/jre/lib/security/cacerts
```

4. サービスを再起動します。

SANtricity Cloud Connectorの初期設定

インストールが完了したら、設定ウィザードを使用してSANtricity Cloud Connectorアプリケーションを設定できます。設定ウィザードは、SANtricity Cloud Connectorに初めてログインしたときに表示されます。

手順

1. [SANtricity Cloud Connectorへの初回ログイン](#) (13ページ)
SANtricity Cloud Connectorに初めてログインするときは、アプリケーションにアクセスするためのデフォルトのパスワードを入力する必要があります。
2. [設定ウィザード](#) (13ページ)
SANtricity Cloud Connectorへの初回ログインが成功すると、設定ウィザードが表示されます。

SANtricity Cloud Connectorへの初回ログイン

SANtricity Cloud Connectorに初めてログインするときは、アプリケーションにアクセスするためのデフォルトのパスワードを入力する必要があります。

開始する前に

- インターネットに接続されたブラウザを使用します。

手順

1. サポートされているブラウザを開きます。
2. 設定されているSANtricity Cloud Connectorサーバに接続します (例: `http://localhost:8080/`)。
SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの初回ログイン ページが表示されます。
3. [Administrator Password]フィールドに、デフォルトパスワード「password」を入力します。
4. [Log In]をクリックします。
SANtricity Cloud Connector設定ウィザードが表示されます。

設定ウィザード

SANtricity Cloud Connectorへの初回ログインが成功すると、設定ウィザードが表示されます。

設定ウィザードを使用して、管理者パスワード、Web Services Proxyログイン管理クレデンシャル、目的のバックアップ ターゲット タイプ、およびSANtricity Cloud Connectorの暗号化パス フレーズを設定します。

手順

1. [管理者パスワードの設定](#) (14ページ)
[Set Administrator Password]ページで、SANtricity Cloud Connectorへの以降のログインで使用するパスワードを変更できます。
2. [パス フレーズの設定](#) (14ページ)

[Enter the Encryption Pass Phrase]ページで、8～32文字の英数字のパス フレーズを指定できます。

3. [ターゲット タイプの選択](#) (15ページ)
SANtricity Cloud Connectorでは、バックアップ / リストア機能のターゲット タイプとして、Amazon S3、AltaVault、StorageGRIDを選択できます。[Select the Target Type]ページで、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションで使用するストレージ ターゲット タイプを指定することができます。
4. [Web Services Proxyへの接続](#) (18ページ)
SANtricity Cloud Connectorで使用するWeb Services Proxyのログイン情報と接続情報は、[Enter Web Services Proxy URL and Credentials]ページで入力します。
5. [SANtricity Cloud Connectorの初期設定の完了](#) (20ページ)
SANtricity Cloud Connectorの設定ウィザードの最後のページには、入力内容の概要が確認用に表示されます。

管理者パスワードの設定

[Set Administrator Password]ページで、SANtricity Cloud Connectorへの以降のログインで使用するパスワードを変更できます。

タスク概要

[Set Administrator Password]画面からパスワードを設定すると、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの初回ログイン時に使用したデフォルトのパスワードが置き換えられます。

手順

1. [Set Administrator Password]ページの[Enter the new administrator password]フィールドに、SANtricity Cloud Connectorで使用する任意のログインパスワードを入力します。
2. [Re-enter the new administrator password]フィールドに、最初のフィールドと同じパスワードをもう一度入力します。
3. [Next]をクリックします。
SANtricity Cloud Connectorのパスワード設定が受け入れられ、設定ウィザードに[Set Pass Phrase]ページが表示されます。

注： ユーザ定義の管理者パスワードは、設定ウィザードを完了するまで反映されません。

次のタスク

[パス フレーズの設定](#) (14ページ) に進みます。

パス フレーズの設定

[Enter the Encryption Pass Phrase]ページで、8～32文字の英数字のパス フレーズを指定できます。

タスク概要

ユーザ指定のパス フレーズは、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションで使用するデータ暗号化キーが必要です。

手順

1. [Define a pass phrase]フィールドに、任意のパス フレーズを入力します。

2. [Re-enter your pass phrase]フィールドに、最初のフィールドと同じパス フレーズをもう一度入力します。
3. [Next]をクリックします。

入力したSANtricity Cloud Connectorアプリケーションのパス フレーズが受け入れられ、設定ウィザードに[Select Target Type]ページが表示されます。

次のタスク

[ターゲット タイプの選択](#) (15ページ) に進みます。

ターゲット タイプの選択

SANtricity Cloud Connectorでは、バックアップ / リストア機能のターゲット タイプとして、Amazon S3、AltaVault、StorageGRIDを選択できます。[Select the Target Type]ページで、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションで使用するストレージ ターゲット タイプを指定することができます。

開始する前に

- 確立されたAltaVaultマウント ポイント、Amazon AWSアカウント、またはStorageGRIDアカウントを用意しておきます。

手順

1. ドロップダウン メニューで、次のいずれかのオプションを選択します。

- Amazon AWS
- AltaVault
- StorageGRID

選択したオプションの[Target Type]ページが設定ウィザードに表示されます。

操作

- [AltaVaultアプライアンス](#) (15ページ)
[Select the Target Type]ページで[AltaVault appliance]オプションを選択すると、AltaVaultのターゲット タイプの設定オプションが表示されます。
- [Amazon AWSアカウント](#) (16ページ)
[Select the Target Type]ページで[Amazon AWS]オプションを選択すると、Amazon AWSターゲット タイプの設定オプションが表示されます。
- [StorageGRIDアカウント](#) (17ページ)
[Select the Target Type]ページで[StorageGRID]オプションを選択すると、StorageGRIDターゲット タイプの設定オプションが表示されます。

AltaVaultアプライアンス

[Select the Target Type]ページで[AltaVault appliance]オプションを選択すると、AltaVaultのターゲット タイプの設定オプションが表示されます。

開始する前に

- AltaVaultアプライアンスのNFSマウント パスを確認しておきます。

タスク概要

設定ウィザードの[AltaVault appliance]ページで、ターゲット タイプとして使用するAltaVault アプライアンスを指定します。

手順

1. [NFS Mount Path]フィールドに、AltaVaultターゲット タイプのマウント ポイントを入力します。
注：[NFS Mount Path]フィールドの値は、Linuxのパスの形式に従う必要があります。
2. [Save a backup of the configuration database on this target]チェック ボックスをオンにして、選択したターゲット タイプに設定データベースのバックアップを作成します。
注：接続のテスト時に指定したターゲット タイプで既存のデータベース設定が検出された場合は、SANtricity Cloud Connectorホストの既存のデータベース設定情報を、設定ウィザードで入力した新しいバックアップ情報に置き換えることができます。
3. [Test Connection]をクリックして、指定したAltaVault設定の接続をテストします。
4. [Next]をクリックします。
SANtricity Cloud Connectorに指定したターゲット タイプが受け入れられ、設定ウィザードに[Web Services Proxy]ページが表示されます。

次のタスク

[Web Services Proxyへの接続](#)（18ページ）に進みます。

Amazon AWSアカウント

[Select the Target Type]ページで[Amazon AWS]オプションを選択すると、Amazon AWSターゲット タイプの設定オプションが表示されます。

開始する前に

- Amazon AWSアカウントを確立しておきます。

タスク概要

設定ウィザードのAmazon AWSのアカウント ページでAmazon AWSのクレデンシャルを指定します。

手順

1. [Access Key ID]フィールドに、Amazon AWSターゲットのアクセスIDを入力します。
2. [Secret Access Key]フィールドに、ターゲットのシークレット アクセス キーを入力します。
3. [Bucket Name]フィールドに、ターゲットのバケット名を入力します。
4. [Save a backup of the configuration database on this target]チェック ボックスをオンにして、選択したターゲット タイプに設定データベースのバックアップを作成します。
重要：この設定を有効にして、データベースが失われた場合にバックアップ ターゲットからデータベースのデータを確実にリストアできるようにすることを推奨します。

注：接続のテスト時に指定したターゲット タイプで既存のデータベース設定が検出された場合は、SANtricity Cloud Connectorホストの既存のデータベース設定情報を、設定ウィザードで入力した新しいバックアップ情報に置き換えることができます。

5. [Test Connection]をクリックして、入力したAmazon AWSクレデンシャルを確認します。
6. [Next]をクリックします。

SANtricity Cloud Connectorに指定したターゲット タイプが受け入れられ、設定ウィザードに[Web Services Proxy]ページが表示されます。

次のタスク

[Web Services Proxyへの接続](#)（18ページ）に進みます。

StorageGRIDアカウント

[Select the Target Type]ページで[StorageGRID]オプションを選択すると、StorageGRIDターゲット タイプの設定オプションが表示されます。

開始する前に

- StorageGRIDアカウントを確立しておきます。
- SANtricity Cloud Connectorキーストアに署名済みのStorageGRID証明書を格納しておきます。

タスク概要

設定ウィザードのStorageGRIDアカウントのページで、ターゲット タイプのStorageGRIDのクレデンシャルを指定します。

手順

1. [URL]フィールドに、Amazon S3クラウド サービスのURLを入力します。
2. [Access Key ID]フィールドに、S3ターゲットのアクセスIDを入力します。
3. [Secret Access Key]フィールドに、S3ターゲットのシークレット アクセス キーを入力します。
4. [Bucket Name]フィールドに、S3ターゲットのバケット名を入力します。
5. パス形式のアクセスを使用する場合は、[Use path-style access]チェック ボックスをオンにします。

注：オフにした場合は仮想ホスト形式のアクセスが使用されます。

6. [Save a backup of the configuration database on this target]チェック ボックスをオンにして、選択したターゲット タイプに設定データベースのバックアップを作成します。

重要：この設定を有効にして、データベースが失われた場合にバックアップ ターゲットからデータベースのデータを確実にリストアできるようにすることを推奨します。

注：接続のテスト時に指定したターゲット タイプで既存のデータベース設定が検出された場合は、SANtricity Cloud Connectorホストの既存のデータベース設定情報を、設定ウィザードで入力した新しいバックアップ情報に置き換えることができます。

7. [Test Connection]をクリックして、入力したS3クレデンシャルを確認します。

注：S3準拠のアカウントの中には、セキュアなHTTP接続が必要なものがあります。
キーストアへのStorageGRID証明書の格納については、[キーストアへのStorageGRID証明書の追加](#)（12ページ）を参照してください。

8. [Next]をクリックします。

SANtricity Cloud Connectorに指定したターゲット タイプが受け入れられ、設定ウィザードに[Web Services Proxy]ページが表示されます。

次のタスク

[Web Services Proxyへの接続](#)（18ページ）に進みます。

Web Services Proxyへの接続

SANtricity Cloud Connectorで使用するWeb Services Proxyのログイン情報と接続情報は、[Enter Web Services Proxy URL and Credentials]ページで入力します。

開始する前に

- SANtricity Web Services Proxyへの接続を確立しておきます。

手順

1. [URL]フィールドに、SANtricity Cloud Connectorに使用するWeb Services ProxyのURLを入力します。
2. [User Name]フィールドに、Web Services Proxy接続のユーザ名を入力します。
3. [Password]フィールドに、Web Services Proxy接続のパスワードを入力します。
4. [Test Connection]をクリックして、入力したWeb Services Proxyクレデンシャルの接続を確認します。
5. 入力したWeb Services Proxyクレデンシャルを接続テストで確認したら、[Next]をクリックします。

SANtricity Cloud ConnectorのWeb Services Proxyクレデンシャルが受け入れられ、設定ウィザードに[Select Storage Arrays]ページが表示されます。

手順

1. [ストレージ アレイの選択](#)（18ページ）
設定ウィザードで入力したSANtricity Web Services Proxyのクレデンシャルに基づいて、使用可能なストレージ アレイのリストが[Select Storage Arrays]ページに表示されます。このページで、SANtricity Cloud Connectorでのバックアップ ジョブとリストア ジョブに使用するストレージ アレイを選択できます。
2. [ホストの選択](#)（19ページ）
[Select Hosts]画面では、設定ウィザードで選択したWeb Services Proxyでホストされるストレージ アレイに基づいて、使用可能なホストを選択して、バックアップおよびリストア候補のボリュームをSANtricity Cloud Connectorアプリケーションにマッピングできます。

ストレージ アレイの選択

設定ウィザードで入力したSANtricity Web Services Proxyのクレデンシャルに基づいて、使用可能なストレージ アレイのリストが[Select Storage Arrays]ページに表示されます。このペー

ジで、SANtricity Cloud Connectorでのバックアップ ジョブとリストア ジョブに使用するストレージ アレイを選択できます。

開始する前に

- SANtricity Web Services Proxyでストレージ アレイを設定しておきます。

注: 到達不能なストレージ アレイがSANtricity Cloud Connectorアプリケーションで検出された場合、ログ ファイルにAPI例外が出力されます。これは、到達不能なアレイからボリューム リストが取得された場合の想定内の動作です。ログ ファイルにこのAPI 例外が出力されないようにするには、根本原因をストレージ アレイで直接解決するか、該当するストレージ アレイをSANtricity Web Services Proxyアプリケーションから削除します。

手順

1. バックアップおよびリストアの処理用にSANtricity Cloud Connectorアプリケーションに割り当てるストレージ アレイの横にある各チェック ボックスをオンにします。
2. [Next]をクリックします。

選択したストレージ アレイが受け入れられ、設定ウィザードの[Select Hosts]ページが表示されます。

注: [Select Storage Arrays]ページで選択するストレージ アレイに対して、有効なパスワードが設定されている必要があります。ストレージ アレイのパスワードは、SANtricity Web Services Proxy APIのドキュメントを参照して設定してください。

次のタスク

[ホストの選択](#)（19ページ）に進みます。

ホストの選択

[Select Hosts]画面では、設定ウィザードで選択したWeb Services Proxyでホストされるストレージ アレイに基づいて、使用可能なホストを選択して、バックアップおよびリストア候補のボリュームをSANtricity Cloud Connectorアプリケーションにマッピングできます。

開始する前に

- SANtricity Web Services Proxyから使用可能なホストを用意しておきます。

手順

1. 表示されたストレージ アレイのドロップダウン メニューで、目的のホストを選択します。
2. [Select Hosts]ページに表示された他のストレージ アレイについて、手順1を繰り返します。
3. [Next]をクリックします。

SANtricity Cloud Connector用に選択したホストが受け入れられ、設定ウィザードの[Review]ページが表示されます。

次のタスク

[SANtricity Cloud Connectorの初期設定の完了](#)（20ページ）に進みます。

SANtricity Cloud Connectorの初期設定の完了

SANtricity Cloud Connectorの設定ウィザードの最後のページには、入力内容の概要が確認用に表示されます。

タスク概要

設定ウィザードで入力したすべての情報を確認して、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの初期セットアップを完了します。

手順

1. 設定データの検証結果を確認します。
 - すべての設定データが検証されて確立されたら、**[Finish]**をクリックして設定プロセスを完了します。
 - 設定データに検証できないセクションがある場合は、**[Back]**をクリックして設定ウィザードの該当するページに移動し、データを修正します。

SANtricity Cloud Connectorの使用

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの左側のナビゲーションパネルから、[Backups]、[Restore]、[Settings]、[Events]の各機能にアクセスできます。

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの機能は、すべてランディング ページ左側のナビゲーションパネルから使用できます。[Backups]オプションを選択すると[Backups]ページが表示され、新しいイメージベースまたはファイルベースのバックアップ ジョブを作成できます。一方、[Restore]オプションを選択すると[Restore]ページが表示され、新しいイメージベースまたはファイルベースのリストア ジョブを作成できます。SANtricity Cloud Connectorアプリケーションに関連するイベントは、すべて[Events]ページで確認できます。最後に、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの設定は、左側のナビゲーションパネルにある各種の設定オプションで設定可能です。

注： SANtricity Cloud Connectorアプリケーションで表示されるバックアップ ジョブとリストア ジョブのタイムスタンプは、いずれもローカル時間のタイムスタンプです。

手順

1. SANtricity Cloud Connectorへのログイン (21ページ)

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションのグラフィカル ユーザ インターフェイスには、設定されたサーバからサポートされているブラウザ経由でアクセスできます。

2. バックアップ (22ページ)

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Backup]ページを使用して、Eシリーズ ボリュームのバックアップを作成および処理できます。SANtricity Cloud Connectorアプリケーションではイメージベースまたはファイルベースのバックアップを作成でき、作成したバックアップはすぐに実行することとあとで実行することもできます。また、フルバックアップを実行するか、最後に実行されたフル バックアップからの増分バックアップを実行するかを選択できます。SANtricity Cloud Connectorアプリケーションで最後に実行されたフルバックアップをベースに、最大6つの増分バックアップを実行できます。

3. リストア (25ページ)

SANtricity Cloud Connectorでは、「ジョブ」を使用してEシリーズ ボリュームのリストアを実行します。リストアを実行する前に、処理に使用するEシリーズ ボリュームを特定しておく必要があります。リストアに使用するEシリーズ ボリュームをSANtricity Cloud Connectorホストに追加したあと、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Restore]ページを使用してリストアを作成および処理できます。

4. SANtricity Cloud Connectorの設定変更 (28ページ)

SANtricity Cloud Connectorのランディング ページ左側のナビゲーション パネル セクションにある[Settings]ボタンを使用して、S3アカウント、管理対象のストレージ アレイとホスト、およびWeb Services Proxyクレデンシャルに関するアプリケーションの現在の設定を変更できます。また、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションのパスワードも[Settings]オプションで変更できます。

SANtricity Cloud Connectorへのログイン

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションのグラフィカル ユーザ インターフェイスには、設定されたサーバからサポートされているブラウザ経由でアクセスできます。

開始する前に

- SANtricity Cloud Connectorアカウントを確立しておきます。

手順

1. サポートされているブラウザで、設定されているSANtricity Cloud Connectorサーバに接続します（例：http://localhost:8080/）。

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションのログイン ページが表示されます。

2. 設定した管理者パスワードを入力します。

3. **[Login]**をクリックします。

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションのランディング ページが表示されます。

バックアップ

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Backup]ページを使用して、Eシリーズ ボリュームのバックアップを作成および処理できます。SANtricity Cloud Connectorアプリケーションではイメージベースまたはファイルベースのバックアップを作成でき、作成したバックアップはすぐに実行することもあとで実行することもできます。また、フルバックアップを実行するか、最後に実行されたフルバックアップからの増分バックアップを実行するかを選択できます。SANtricity Cloud Connectorアプリケーションで最後に実行されたフルバックアップをベースに、最大6つの増分バックアップを実行できます。

手順

1. [イメージベースのバックアップの新規作成](#) (22ページ)
SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Backups]ページの[Create]機能を使用して、新しいイメージベースのバックアップを作成できます。
2. [フォルダ / ファイルベースのバックアップの新規作成](#) (23ページ)
SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Backups]ページの[Create]機能を使用して、新しいフォルダ / ファイルベースのバックアップを作成できます。
3. [フルバックアップと増分バックアップの実行](#) (24ページ)
[Backups]ページの[Run]機能を使用して、フルバックアップと増分バックアップを実行できます。増分バックアップは、ファイルベースのバックアップでのみ使用できます。
4. [バックアップ ジョブの削除](#) (25ページ)
[Delete]機能を使用して、選択したバックアップ項目を[Backups]ページの結果リスト セクションから削除できます。

イメージベースのバックアップの新規作成

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Backups]ページの[Create]機能を使用して、新しいイメージベースのバックアップを作成できます。

開始する前に

- ストレージ アレイをWeb Services ProxyからSANtricity Cloud Connectorに登録しておきます。

手順

1. [Backups]ページで、**[Create]**をクリックします。

[Create Backup]ウィンドウが表示されます。

2. **[Create an image-based backup]**を選択します。

3. **[Next]**をクリックします。

使用可能なEシリーズ ボリュームのリストが[Create Backup]ウィンドウに表示されます。

4. 目的のEシリーズ ボリュームを選択し、[Next]をクリックします。

[Create Backup]確認ウィンドウの[Name the backup and provide a description]ページが表示されます。

5. 自動生成されたバックアップ名を変更するには、[Job Name]フィールドに希望する名前を入力します。
6. 必要に応じて、[Job Description]フィールドにバックアップの説明を追加します。

注：バックアップの内容が簡単にわかるような説明を入力しておくとう便利です。

7. [Next]をクリックします。

選択したイメージベースのバックアップの概要が[Create Backup]ウィンドウの[Review backup information]ページに表示されます。

8. 選択したバックアップを確認し、[Finish]をクリックします。

[Create Backup]ウィンドウの確認ページが表示されます。

9. 次のいずれかのオプションを選択します。

- **YES：**選択したバックアップのフルバックアップが開始されます。
- **NO：**選択したイメージベースのバックアップのフルバックアップは実行されません。

注：選択したイメージベースのバックアップのフルバックアップは、あとで[Backups]ページの[Run]機能からも実行できます。

10. [OK]をクリックします。

選択したEシリーズ ボリュームのバックアップが開始され、タスクのステータスが[Backups]ページの結果リスト セクションに表示されます。

フォルダ / ファイルベースのバックアップの新規作成

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Backups]ページの[Create]機能を使用して、新しいフォルダ / ファイルベースのバックアップを作成できます。

開始する前に

- ストレージ アレイをWeb Services ProxyからSANtricity Cloud Connectorに登録しておきます。

タスク概要

ファイルベースのバックアップでは、指定したファイルシステム上のすべてのファイルが無条件にバックアップされます。ただし、リストアはファイルとフォルダを選択して実行できます。

手順

1. [Backups]で、[Create]をクリックします。
[Create Backup]ウィンドウが表示されます。
2. [Create a folder/file-based backup]を選択します。
3. [Next]をクリックします。

バックアップ可能なファイルシステムを含むボリュームのリストが[Create Backup]ウィンドウに表示されます。

4. 目的のボリュームを選択し、[Next]をクリックします。

選択したボリューム上の使用可能なファイルシステムのリストが[Create Backup]ウィンドウに表示されます。

注：ファイルシステムが表示されない場合は、ファイルシステムのタイプがSANtricity Cloud Connectorアプリケーションでサポートされていることを確認します。詳細については、[サポートされているファイルシステム](#) (7ページ) を参照してください。

5. バックアップするフォルダまたはファイルを含むファイルシステムを選択し、[Next]をクリックします。

[Create Backup]確認ウィンドウの[Name the backup and provide a description]ページが表示されます。

6. 自動生成されたバックアップ名を変更するには、[Job Name]フィールドに希望する名前を入力します。

7. 必要に応じて、[Job Description]フィールドにバックアップの説明を追加します。

注：バックアップの内容が簡単にわかるような説明を入力しておくと便利です。

8. [Next]をクリックします。

選択したフォルダベースまたはファイルベースのバックアップの概要が[Create Backup]ウィンドウの[Review backup information]ページに表示されます。

9. 選択したフォルダ / ファイルベースのバックアップを確認し、[Finish]をクリックします。

[Create Backup]ウィンドウの確認ページが表示されます。

10. 次のいずれかのオプションを選択します。

- **YES：** 選択したバックアップのフルバックアップが開始されます。
- **NO：** 選択したバックアップのフルバックアップは実行されません。

注：選択したファイルベースのバックアップのフルバックアップは、あとで[Backups]ページの[Run]機能からも実行できます。

11. [Close]をクリックします。

選択したEシリーズ ボリュームのバックアップが開始され、タスクのステータスが[Backup]ページの結果リスト セクションに表示されます。

フル バックアップと増分バックアップの実行

[Backups]ページの[Run]機能を使用して、フルバックアップと増分バックアップを実行できます。増分バックアップは、ファイルベースのバックアップでのみ使用できます。

開始する前に

- SANtricity Cloud Connectorでバックアップ ジョブを作成しておきます。

手順

1. [Backups]タブで、目的のバックアップ ジョブを選択し、[Run]をクリックします。

注：イメージベースのバックアップ ジョブを選択した場合や初期バックアップが実行されていないバックアップ ジョブを選択した場合は、自動的にフルバックアップが実行されます。

[Run Backup]ウィンドウが表示されます。

2. 次のいずれかのオプションを選択します。

- **Full:** 選択したファイルベースのバックアップのすべてのデータをバックアップします。
- **Incremental:** 前回のバックアップの実行後に行われた変更のみをバックアップします。

注：SANtricity Cloud Connectorアプリケーションで最後に実行されたフルバックアップをベースに、最大6つの増分バックアップを実行できます。

3. [Run]をクリックします。

バックアップが開始されます。

バックアップ ジョブの削除

[Delete]機能を使用して、選択したバックアップ項目を[Backups]ページの結果リスト セクションから削除できます。

開始する前に

- ステータスが[Completed]、[Failed]、または[Canceled]のバックアップを確認しておきます。

タスク概要

[Delete]機能を実行すると、バックアップ セットに加えて、選択したバックアップに対してターゲットの場所にバックアップされているデータが削除されます。

手順

1. [Backups]ページで目的のバックアップを選択し、[Delete]をクリックします。

注：フルバックアップを選択した場合は、関連する増分バックアップもすべて削除されます。

[Confirm Delete]ウィンドウが表示されます。

2. [Type delete]フィールドに「DELETE」と入力して削除操作を確定します。

3. [Delete]をクリックします。

選択したバックアップが削除されます。

リストア

SANtricity Cloud Connectorでは、「ジョブ」を使用してEシリーズ ボリュームのリストアを実行します。リストアを実行する前に、処理に使用するEシリーズ ボリュームを特定しておく必要があります。リストアに使用するEシリーズ ボリュームをSANtricity Cloud Connectorホ

ストに追加したあと、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Restore]ページを使用してリストアを作成および処理できます。

手順

1. [イメージベースのリストアの新規作成](#) (26ページ)
SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Restore]ページにある[Create]機能を使用して、イメージベースの新しいリストアを作成できます。
2. [ファイルベースのリストアの新規作成](#) (27ページ)
SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Restore]ページの[Create]機能を使用して、ファイルベースのリストアを新しく作成できます。
3. [リストアの削除](#) (27ページ)
[Delete]機能を使用すると、選択したリストア項目を[Restore]ページの結果リスト セクションから削除できます。

イメージベースのリストアの新規作成

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Restore]ページにある[Create]機能を使用して、イメージベースの新しいリストアを作成できます。

開始する前に

- SANtricity Cloud Connectorで使用可能なイメージベースのバックアップを確認しておきます。

手順

1. SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Restore]ページで、[Create]をクリックします。
[Restore]ウィンドウが表示されます。
2. 目的のバックアップを選択します。
3. [Next]をクリックします。
[Restore]ウィンドウに、[Select Backup Point]ページが表示されます。
4. 目的の完了済みバックアップを選択します。
5. [Next]をクリックします。
[Restore]ウィンドウに[Select Restore Target]ページが表示されます。
6. リストア ボリュームを選択し、[Next]をクリックします。
[Restore]ウィンドウに[Review]ページが表示されます。
7. 選択したリストア処理を確認し、[Finish]をクリックします。
選択したターゲット ホスト ボリュームのリストアが開始され、タスクのステータスが[Restore]ページの結果リスト セクションに表示されます。

ファイルベースのリストアの新規作成

SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Restore]ページの[Create]機能を使用して、ファイルベースのリストアを新しく作成できます。

開始する前に

- SANtricity Cloud Connectorで使用可能なファイルベースのバックアップを確認しておきます。

手順

1. SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの[Restore]ページで、[Create]をクリックします。
[Restore]ウィンドウが表示されます。
2. [Restore]ウィンドウで、目的のファイルベースのバックアップを選択します。
3. [Next]をクリックします。
[Create Restore Job]ウィンドウに[Select Backup Point]ページが表示されます。
4. [Select Backup Point]ページで、完了している目的のバックアップを選択します。
5. [Next]をクリックします。
使用可能なファイルシステムまたはフォルダ / ファイルのリストが[Restore]ページに表示されます。
6. リストアするフォルダまたはファイルを選択し、[Next]をクリックします。
[Restore]ウィンドウに[Select Restore Target]ページが表示されます。
7. リストア ボリュームを選択し、[Next]をクリックします。
[Restore]ウィンドウに[Review]ページが表示されます。
8. 選択したリストア処理を確認し、[Finish]をクリックします。
選択したターゲット ホスト ボリュームのリストアが開始され、タスクのステータスが[Restore]ページの結果リスト セクションに表示されます。

リストアの削除

[Delete]機能を使用すると、選択したリストア項目を[Restore]ページの結果リスト セクションから削除できます。

開始する前に

- ステータスが[Completed]、[Failed]、または[Canceled]のジョブを確認しておきます。

手順

1. [Restore]ページで、[Delete]をクリックします。
[Confirm Delete]ウィンドウが表示されます。
2. [Type delete]フィールドに「delete」と入力して削除操作を確定します。
3. [Delete]をクリックします。

注： 中断されているリストアは削除できません。

選択したリストア ジョブが削除されます。

SANtricity Cloud Connectorの設定変更

SANtricity Cloud Connectorのランディング ページ左側のナビゲーション パネル セクションにある[Settings]ボタンを使用して、S3アカウント、管理対象のストレージ アレイとホスト、およびWeb Services Proxyクレデンシャルに関するアプリケーションの現在の設定を変更できます。また、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションのパスワードも[Settings]オプションで変更できます。

操作

- [S3アカウントの設定](#) (28ページ)
[S3 Account Settings]ウィンドウで、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの既存のS3設定を変更できます。
- [ストレージ アレイの管理](#) (29ページ)
[Manage Storage Arrays]ページで、Web Services ProxyからSANtricity Cloud Connectorホストに登録されたストレージ アレイを追加または削除できます。
- [Web Services設定](#) (29ページ)
[Web Services Proxy Settings]ウィンドウで、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの既存のWeb Services Proxy設定を変更できます。
- [SANtricity Cloud Connectorのパスワードの変更](#) (30ページ)
[Change Password]画面で、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションのパスワードを変更できます。

S3アカウントの設定

[S3 Account Settings]ウィンドウで、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの既存のS3設定を変更できます。

タスク概要

URLまたはS3バケット ラベルの設定を変更すると、SANtricity Cloud Connectorで設定された既存のバックアップへのアクセスに影響する点に注意してください。

手順

1. 左側のツールバーで、[Settings] > [Configuration]をクリックします。
[Settings - Configuration]ページが表示されます。
2. S3アカウント設定の[View/Edit Settings]をクリックします。
[S3 Account Settings]ページが表示されます。
3. [URL]フィールドに、S3クラウド サービスのURLを入力します。
4. [Access Key ID]フィールドに、S3ターゲットのアクセスIDを入力します。
5. [Secret Access Key]フィールドに、S3ターゲットのアクセス キーを入力します。
6. [S3 Bucket Name]フィールドに、S3ターゲットのバケット名を入力します。
7. [Use Path Style Access]チェック ボックスを必要に応じてオンにします。

8. **[Test Connection]**をクリックして、入力したS3クレデンシャルの接続を確認します。
9. **[Save]**をクリックして変更を適用します。
変更したS3アカウント設定が適用されます。

ストレージ アレイの管理

[Manage Storage Arrays]ページで、Web Services ProxyからSANtricity Cloud Connectorホストに登録されたストレージ アレイを追加または削除できます。

タスク概要

[Manage Storage Arrays]ページには、SANtricity Cloud Connectorホストに登録可能なWeb Services Proxyのストレージ アレイのリストが表示されます。

手順

1. 左側のツールバーで、**[Settings]** > **[Storage Arrays]**をクリックします。
[Settings - Storage Arrays]画面が表示されます。
2. SANtricity Cloud Connectorにストレージ アレイを追加するには、**[Add]**をクリックします。
 - a. [Add Storage Arrays]ウィンドウで、結果リストから目的のストレージ アレイの横にあるチェック ボックスを選択します。
 - b. **[Add]**をクリックします。
選択したストレージ アレイがSANtricity Cloud Connectorに追加され、[Settings - Storage Arrays]画面の結果リスト セクションに表示されます。
3. 追加したストレージ アレイのホストを変更するには、[Settings - Storage Arrays]画面の結果リスト セクションで該当する行の**[Edit]**をクリックします。
 - a. [Associated Host]ドロップダウン メニューで、ストレージ アレイに使用するホストを選択します。
 - b. **[Save]**をクリックします。
選択したホストがストレージ アレイに割り当てられます。
4. SANtricity Cloud Connectorホストから既存のストレージ アレイを削除するには、下部の結果リストから目的のストレージ アレイを選択し、**[Remove]**をクリックします。
 - a. [Confirm Remove Storage Arrays]フィールドに「REMOVE」と入力します。
 - b. **[Remove]**をクリックします。
選択したストレージ アレイがSANtricity Cloud Connectorホストから削除されます。

Web Services設定

[Web Services Proxy Settings]ウィンドウで、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの既存のWeb Services Proxy設定を変更できます。

開始する前に

- SANtricity Cloud Connectorで使用するWeb Services Proxyに適切なアレイが追加されていて、対応するパスワードが設定されている必要があります。

手順

1. 左側のツールバーで、**[Settings]** > **[Configuration]**をクリックします。
[Settings - Configuration]画面が表示されます。
2. Web Services Proxyの**[View/Edit Settings]**をクリックします。
[Web Services Proxy settings]画面が表示されます。
3. [URL]フィールドに、SANtricity Cloud Connectorに使用するWeb Services ProxyのURLを入力します。
4. [User Name]フィールドに、Web Services Proxy接続のユーザ名を入力します。
5. [Password]フィールドに、Web Services Proxy接続のパスワードを入力します。
6. **[Test Connection]**をクリックして、入力したWeb Services Proxyクレデンシャルの接続を確認します。
7. **[Save]**をクリックして変更を適用します。

SANtricity Cloud Connectorのパスワードの変更

[Change Password]画面で、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションのパスワードを変更できます。

手順

1. 左側のツールバーで、**[Settings]** > **[Configuration]**をクリックします。
[Settings - Configuration]画面が表示されます。
2. SANtricity Cloud Connectorの**[Change Password]**をクリックします。
[Change Password]画面が表示されます。
3. [Current password]フィールドに、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの現在のパスワードを入力します。
4. [New Password]フィールドに、SANtricity Cloud Connectorアプリケーションの新しいパスワードを入力します。
5. [Confirm new password]フィールドに、新しいパスワードをもう一度入力します。
6. **[Change]**をクリックして新しいパスワードを適用します。
変更したパスワードがSANtricity Cloud Connectorアプリケーションに適用されます。

SANtricity Cloud Connectorのアンインストール

SANtricity Cloud Connectorは、グラフィカルなアンインストーラまたはコンソールからアンインストールできます。

操作

- [グラフィカルモードを使用したSANtricity Cloud Connectorのアンインストール](#) (31ページ)
Linuxオペレーティングシステムでグラフィカルモードを使用してSANtricity Cloud Connectorをアンインストールできます。
- [コンソールモードを使用したSANtricity Cloud Connectorのアンインストール](#) (32ページ)
Linuxオペレーティングシステムでコンソールモードを使用してSANtricity Cloud Connectorをアンインストールできます。

グラフィカルモードを使用したSANtricity Cloud Connectorのアンインストール

Linuxオペレーティングシステムでグラフィカルモードを使用してSANtricity Cloud Connectorをアンインストールできます。

手順

1. ターミナルウィンドウで、SANtricity Cloud Connectorアンインストールファイルが格納されているディレクトリに移動します。

SANtricity Cloud Connectorのアンインストールファイルのデフォルトのディレクトリは次のとおりです。

```
/opt/netapp/santricity_cloud_connector4/uninstall_cloud_connector4
```

2. SANtricity Cloud Connectorアンインストールファイルが格納されているディレクトリから、次のコマンドを実行します。

```
./uninstall_cloud_connector4 -i gui
```

SANtricity Cloud Connectorのアンインストールプロセスが開始されます。

3. アンインストールウィンドウで、**[Uninstall]**をクリックしてSANtricity Cloud Connectorのアンインストールに進みます。

アンインストールプロセスが完了し、SANtricity Cloud ConnectorアプリケーションがLinuxオペレーティングシステムからアンインストールされます。

コンソールモードを使用したSANtricity Cloud Connectorのアンインストール

Linuxオペレーティングシステムでコンソールモードを使用してSANtricity Cloud Connectorをアンインストールできます。

手順

1. ターミナルウィンドウで、SANtricity Cloud Connectorアンインストールファイルが格納されているディレクトリに移動します。

SANtricity Cloud Connectorのアンインストールファイルのデフォルトのディレクトリは次のとおりです。

```
/opt/netapp/santricity_cloud_connector4/uninstall_cloud_connector4
```

2. SANtricity Cloud Connectorアンインストールファイルが格納されているディレクトリから、次のコマンドを実行します。

```
./uninstall_cloud_connector4 -i console
```

SANtricity Cloud Connectorのアンインストールプロセスが開始されます。

3. アンインストールウィンドウで、**Enter**キーを押してSANtricity Cloud Connectorのアンインストールに進みます。

アンインストールプロセスが完了し、SANtricity Cloud ConnectorアプリケーションがLinuxオペレーティングシステムからアンインストールされます。

著作権に関する情報

Copyright © 2019 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S.A.

このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

ここに記載されている「データ」は商用品目（FAR 2.101で定義）に該当し、その所有権はネットアップに帰属します。米国政府は、データが提供される際の米国政府との契約に関連し、かつ当該契約が適用される範囲においてのみ「データ」を使用するための、非独占的、譲渡不可、サブライセンス不可、世界共通の限定的な取り消し不可のライセンスを保有します。ここに記載されている場合を除き、書面によるネットアップの事前の許可なく、「データ」を使用、開示、複製、変更、実行、または表示することは禁止されています。米国国防総省のライセンス権限は、DFARS 252.227-7015 (b) 項に規定されている権限に制限されます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、ネットアップの商標一覧のページに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。

<http://www.netapp.com/jp/legal/netapptmlist.aspx>

マニュアルの更新について

弊社では、マニュアルの品質を向上していくため、皆様からのフィードバックをお寄せいただく専用のEメール アドレスを用意しています。また、GA/FCS版の製品マニュアルの初回リリース時や既存マニュアルへの重要な変更があった場合にご案内させていただくTwitter アカウントもあります。

本マニュアルの改善についてご提案がある場合は、次のアドレスまでコメントをEメールでお送りください。

ng-gpso-jp-documents@netapp.com

その際、担当部署で適切に対応させていただくため、製品名、バージョン、オペレーティング システム、弊社営業担当者または代理店の情報を必ず入れてください。

GA/FCS版の製品マニュアルの初回リリース時や既存マニュアルへの重要な変更があった場合のご案内を希望される場合は、Twitterアカウント@NetAppDocをフォローしてください。